

一生成香・No. 38 「84 歳。やっぱりめでたい」 その2

2730 地区 DPG 菊地 平

(2730 ジャパンカレント・ロータリーE クラブ)



目出度い事を追加します。

プラスワン会・川原さんが次年度ガバナーに就任されます。そして地区目標に同じ「プラスワン」を使いたい、次年度はロータリー財団 101 年目で 100 プラスワン〜としたいとの申し出があって「プラスワン」の復活です。快く了解をいたしました。

そして次年度地区大会・講演者の一人として、プラスワン会の笹山始良市長を予定しているとの発表もありました。笹山市長は鹿児島県中部分区のガバナー補佐をしていただき、任期終了と同時に、加治木町長の選挙に初挑戦見事当選された方で、現在は始良市長としてマスコミにも良く取り上げられています。

〜という事などで、**84 歳やっぱりめでたい**〜とした次第です。

長くなりますが、人間の寿命について、グリム兄弟の話をご覧ください。

メルヘンのグリム兄弟・Web 上から転載 寿命

神様が世界を創って、それぞれの生き物の寿命を定めようと思いました。すると、ロバがやってきて、「神様、私はどのくらい生きますか？」と尋ねました。「30 年だ。」と神様は答えました。「それで満足か?」「ああ、神様」とロバは答えました。「それは長いですね。私の骨の折れる毎日を考えてください。朝から晩まで重い荷物を運び、他の人たちがパンを食べるように粉ひき小屋までなん袋も穀物を引きずっていき、ぶたれたり蹴られたりする他は何も励ましてもらったり元気づけてもらったりしないのです。この長い年月を少し減らしてください。」すると神様はロバを可哀そうに思い、18 年減らしてあげました。

ロバはホッとして去り、犬が現れました。「お前はどれくらい生きたいかね?」と神様は犬に言いました。「ロバには 30 年が多すぎたのだが、お前はそれでいいだろう。」「神様」と犬は答えました。「それが神様の思し召しですか? 私がどれだけ走らないといけないかお考えください。私の足はそんなに長くもちません。それにいったん声が出なくなり吠えられなかったり、歯が無くなって

かみつけなくなれば、私に残るのはすみからすみへ走って行き喰うだけです。」神様は犬の言うことをもっともだとわかり、12年寿命を減らしてあげました。

すると猿が来ました。「お前はきっと喜んで30年生きるだろうな。」と神様は猿に言いました。「お前はロバや犬のように働かなくていいし、いつも楽しくやってるからな。」「ああ、神様」と猿は答えました。「そんな風に見えるかもしれませんが、全然違います。キビがゆが降ってきても、スプーンがありません。私はいつも楽しいいたずらをしたり、いろいろ変な顔をして人々を笑わせなくてはならないのです。りんごをもらってかじってみると、まあ、酸っぱいこと。どれだけ喜劇のかげに悲劇ありなことか。30年もとてももちません。」神様は恵み深く、10年減らしてあげました。

最後に人間が現れました。人間は楽しそうで健康で元気いっぱいでした。そして寿命を決めてくださるよう神様にお願いしました。「お前は30年生かそう。」と神様は言いました。「それで十分かね?」「何て短いんでしょう。」と人間は叫びました。「私が家を建て、火を自分のかまどで燃やし、木を植えて花が咲き実を結ぶとき、私は死ななくてはなりません。ああ、神様、私の寿命を延ばしてください。」「それではロバの18年をそれに足そう。」と神様は言いました。「それでも十分じゃありません。」と人間は答えました。「犬の12年もお前にやろう。」「まだ少なすぎます。」「ええと、それでは」と神様は言いました。「猿の12年もやろう。だがそれ以上はだめだぞ。」

人間は去っていきましたが満足していませんでした。それで人間は70年生きるのです。最初の30年は人間の年月ですぐ終わり、そのときは健康で明るく、楽しく働き、自分の人生を楽しみます。次にロバの18年が続き、このときは次から次へと重荷を背負い、他の人に食べさせる穀物を運ばなくてはなりません。そしてなぐられたり蹴られたりするのが、一生懸命務めたことの報いです。それから犬の12年が来ます。そのときはすみにいて、うなり、もう噛む歯がありません。これが終わると、猿の10年でおしまいになります。そのとき人間は頭が弱って愚かになり、ばかげたことをして、子供たちの笑い者になります。

(2017年12月5日)